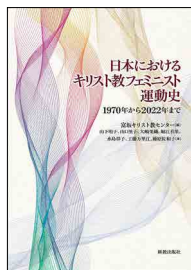




# 新教出版社 出版通信

2023年  
6月

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 Fax: 03-3260-6198  
ホームページ: <http://park11.wakwak.com/~shinkyu/>



重要テーマを論者が  
考察。  
本書は今後この分野  
を論ずる際に不可欠  
の文献となるだろう。

# 日本におけるキリスト教 フェミニスト運動史

1970年から  
2022年まで

富坂キリスト教センター [編]

山下明子、山口里子、大嶋果織、堀江有里、水島祥子、工藤万里江、藤原佐和子 [著]

画期的な共同研究！

今後の議論に不可欠の書！

70年代以降半世紀の間、日本のキリスト教界でフェミニスト運動がどのように展開されてきたかを、詳細な年表と解説、コラム記事で展望する。また同時代を生きた4人の女性の証言、インタビューを付す。さらにメディア表象から異性愛規範への抵抗まで、6つの

## 【目次より】

### 第1部 それぞれの時代

#### 第1章 解説・年表・コラム

1. 1970年代 / 2. 1980年代 / 3. 1990年代 / 4. 2000年代 / 5. 2010年代

#### 第2章 座談会「50年を振り返り、今とこれからを考える」

#### 第2部 それぞれの経験

横田幸子、申英子、高里鈴代、呉寿恵

#### 第3部 課題を掘る

論考1 『福音と世界』におけるジェンダー／セクシュアリティ表象 工藤万里江

論考2 日本キリスト教協議会（NCC）加盟教会における女性の按手 藤原佐和子

論考3 天皇制・キリスト教・女性 山下明子

論考4 フェミニスト神学 山口里子

論考5 結婚式式文——家父長制キリスト教の強固な砦 大嶋果織

論考6 異性愛規範に抵抗する〈女たち〉の連帯 堀江有里

◆ B5判・216頁・定価2750円

# 第一ペトロ書を読む

釈義と説教

◆四六判・210頁・定価2200円

石田学 著

5月18日発売

「あなたがたは旅人であり、仮住まいの身なのです。」

(一ペトロ2・11)

広大なローマ帝国の辺境で徹底的な少数者の立場に置かれ、差別と迫害に苦しむキリスト者。第一ペトロ書は彼らに向けて、自分たちは何者か、何を信じ、いかに生きるべきかを、力強く明確に語る。本書はそのメッセージを、《釈義》と《説教》の2部構成を通して、現代の私たちに生き生きと伝える。信徒にも説教者にも豊かな学びの一冊。



ペトロの手紙一は短い手紙ですが、内容はとても魅力的で、神学的な冒険と挑戦に満ちています。できるだけ簡潔かつ丁寧に釈義をおこない、それを根拠とした説教を心がけました。一ペトロ書で特に心を動かされるのは、その時代の信者に対する大胆な倫理的勧告の部分です。本書をとおして一ペトロ書の魅力を共有していただけるなら、なによりです。(本書より)

既刊 **エフエソ書を読む** 釈義と説教 ◆定価2200円

## 神と上帝 聖書訳語論争への新たなアプローチ

金香花 著

5月25日発売

◆A5判・188頁・定価4400円

キリスト教の神を「神」と訳すか「上帝」と訳すか——。19世紀中国でついに決着がつかなかった訳語論争の本質を、その後の朝鮮語と日本語における聖書翻訳と比較しつつ、信仰の伝達と意味の翻訳の両面を手掛かりに考察する。さらに近年発達めざましい聖書翻訳理論と突き合わせ、そもそも聖書翻訳とは何かに迫った意欲的な研究。

**著者紹介** 金香花(きん・こうか)1982年中国黒竜江省生まれの中国朝鮮族人。南京航空航天大学日本語学科卒業。2017年京都大学文学研究科思想文化学専攻博士後期課程修了。2018年5月博士学位取得。2020年8月から黄山学院(中国)日本語学科講師。

寺園喜基著

## カール・バルト『教会教義学』の世界

バルトの名著『教会教義学』は20世紀神学における最も重要な貢献の一つだが、邦訳で36巻に及ぶ膨大で複雑な内容は、通読はおろか全容を見通すことも困難である。本書は、生涯にわたり『教会教義学』に取り組んできた著者が一般読者のために試みた平易な道案内であり、バルト神学への無二の入門書ともなっている。

四六判・予価30000円

関口安義著

## 内村鑑三 闘いの軌跡

内村鑑三の激動の生涯を実証的な調査に徹して描き切った評伝大作。著者は芥川龍之介研究から出発し、芥川人脈に連なる多くの知識人の評伝をものしてきた。本書は2019年に上梓した『評伝矢内原忠雄』に次ぐ著者のライフワークであり、遺作となった。

A5判・予価80000円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

## マルティン・ニーメラー ヒトラーに逆らった牧師「復讐」

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第一次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキズニカルな場で活躍した激動の生涯。

四六判・予価35000円

● 4月に出た本と雑誌

ユダヤ人も異邦人もなく  
パウロ研究の新潮流



従来のパウロ理解に異議を申し立て、新約学界で激しい論議を呼んでいる「パウロへの新しい視点」(NPP)。その起源から最新の議論までをカバーした本邦初の本格解説書。

◆四六判・定価2475円

## コヘレトの言葉

W・リュティエ著／宍戸達訳



「すべては空亡と観ずる旧約中の異色の書。しかし著者は、神への信仰に立って自らの人生を生きよと勧める人として読む。傑出した説教者による力強い講解!『説教者ソロモン』を改訳・改題して贈る。

◆四六判・定価2310円

## 福音と世界

◆定価6600円

5月号

「共感」をめぐる

——ヘイト／反ヘイトの〈解かれ〉へ

寄稿者…李在永、佐々木和之、柴田かおり、井谷聡子、有住航

新連載 飯田華子／好評連載 金歌晃、長尾優、山下

壮起、C・J・サンダース&A・ヤーバー、村澤真保良、山崎ランサム和彦、山口陽一、勝村弘也

# 福音と世界

2023年  
6

A5判・80頁・定価660円・送料70円  
年間予約購読料（送料共）8760円

## 特集・世界教会協議会（WCC） 第11回総会

世界危機の闇に照らすWCCのエキメニカル

宣教のともし火——金性済

WCC第11回総会に出席して——西之園路子

WCC第11回総会——鄭詩温

WCC総会からみるエキメニズムの未来——伊勢希

第11回WCCカールスルーエ総会声明（翻訳）

第11回総会メッセージ（翻訳）

解説 世界教会協議会（WCC）ジェンダー

正義に関する基本原則——藤原佐和子

### 【新連載】

◆神と「女性的なるもの」を辿って——西洋中世の女性神秘家たち……後藤里菜

### 【好評連載】

◆グレート小林と3人の女2……飯田華子

◆私は告白する、私の神を3……長尾優

◆地域から考える在日朝鮮人史と教会史3……金耿昊

◆フット・スピリチュアルズ12（最終回）——山下壮起

◆教会に於けるマイクログレシヨン14——サンダース、ヤーバー

◆「日本的キリスト教」を読む17——山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書18……山崎ランサム和彦

◆古代イスラエル文学史序説28……勝村弘也

ることもしばしば。そうした向きとは一線を画した、階級闘争への徹底したこだわりとそれを裏打ちする聖書理解には唯一無二の魅力がありますし、これが書籍になったときにはやはり唯一無二の本になるのだらうと思います。（堀）

●「本で世界を占拠したい」——そんな言葉を、届いたばかりの『梓会通信』最新号で目にしました。第18回出版梓会新聞社芸文化賞を受賞した、「共和国という、屋号だけは大きな出版社を一人で営んでいる下平尾」社長の言葉です。私は自社の本をベストセラーにして洛陽の紙価を高からしめたいという野望は抱いたことがありますが、世界を占拠したいとまで思ったことはないので意表を突かれました。本によるオキユバイ運動。ブラッドベリが『華氏451度』で描いた、画像や音声メディアのみが許される世界へと、現実がどんな横滑りしていく時代への抵抗でもあるのでしょうか。その志やよしと思い、私自身にもカツを入れられた思いがしました。ちなみに共和国は流通部門をトランスビューに委託しているようです。同社の工藤社長の挨拶がこれまた振るっていました。「世界を書物で占拠してもらってもいいんですけれども、トランスビューの倉庫を占拠しないように気を付けてください。」（小林）

●保育園に通いはじめた子が繰り返し風邪を引きながら免疫をつけていくこと、そしてその過程で保護者も何度も風邪をうつされることを、世間では「保育園の洗礼」というのだそうです。うちも多分に漏れず洗礼を受け、友人の歴史学者マニユエル・ヤンさんに思わずメールで愚痴ったところ「Baptism by nursery」という物々しい英訳が返ってきたのももう一週間前のこと、家中に蔓延した風邪はまだ治りません。俗説では「子どもからうつる風邪はキツイ」のだそうですが——並々ならない濃厚接触を強いられるのですから当然といえば当然——コロナ禍で常時マスクをつけるようになり、風邪を引くこと自体からしばらく遠ざかっていた身体にはいっそう堪えます。そうしたなか気持ちを明るくしてくれたのは、マニユエルさんがかつて『福音と世界』に連載していた「バビロンの路上で Conjectures of a Son of a Preacher Man」の改稿が終わったという知らせでした。風邪でヨロヨロになりながら改稿版を読み進めています。おもしろいです。マルクス主義や社会主義の議論は昨今それなりに流行しており、一部の研究者がスター的にもはやされる傾向もありますが、社会を俯瞰的に分析し教導しようとする上からの視線がそこに見られ